

環境設定のコツと実践 ～物的環境と人的環境～



ヒトツナ大袋教室

橘



目次

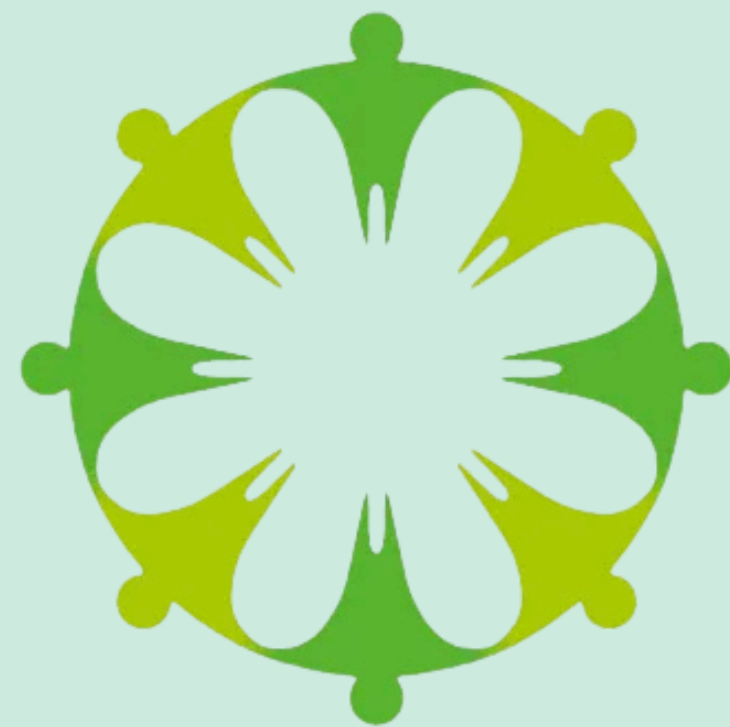
- ・ 自己紹介
- ・ はじめに：ヒトツナの理念とは
- ・ ヒトツナのプログラム
- ・ 研修の目的
- ・ 物的環境と人的環境
- ・ リードの役割
- ・ プロンプターの役割
- ・ スムーズにプログラムを進行するために
- ・ いろいろな視点で環境設定を試みよう
- ・ ほめ言葉って？
- ・ 名前を覚え合うことの大切さ
- ・ おわりに

－ 自己紹介 －

橘 健太（たちばな けんた）

神奈川県出身

大学・大学院で、『多文化共生』について学ぶ

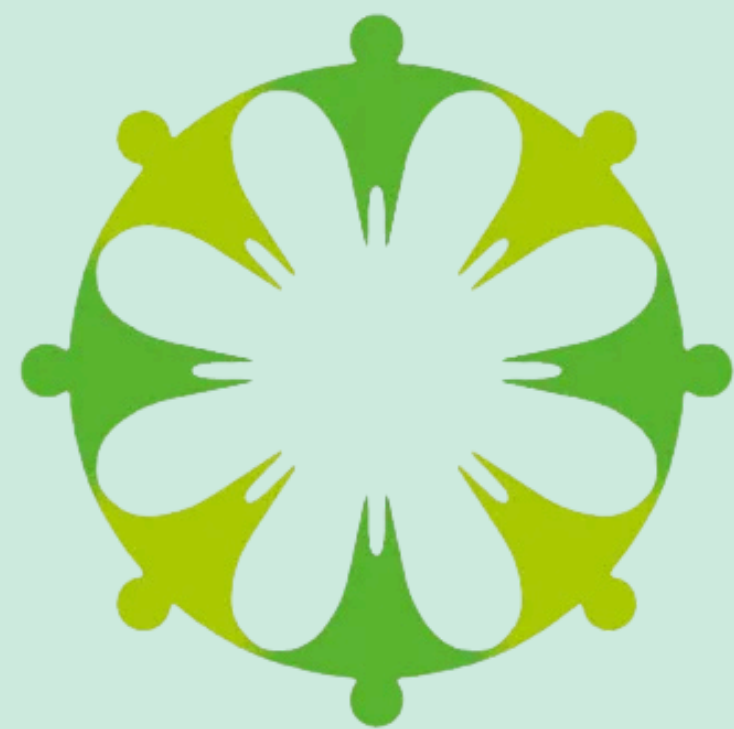


【経歴】

- ・ 小学校教員
- ・ 日本テレビアート（テロップの校正）
- ・ 児童発達支援／放課後等デイサービス従事
（管理者・児童発達支援管理責任者）



- ・ ヒトツナ大袋教室 2年目
- ・ 運営指導前、開所時のSVとして
各教室を訪問



－はじめに－

ヒトツナの理念とは？



ヒトツナの理念とは？

“人と人との繋がりを大切に”

“人との繋がりをもっと楽しく”

豊かな感受性と表現力を育てる

小手先の方法ではうまくいかない

大前提として、支援をする際には、子どもとたっぷり遊んだり、しゃべったりして、「**信頼関係**」を構築することが大切です。

方法論のみで、子どもをコントロールしようとしても本当にうまくいかないことが多いです。まずは、最適な環境下において、子どもの安心・安全が担保されることが最優先です。



失敗談 その①



- ・ 前職では、個別療育としての学習支援を展開していましたが…。
- ・ 彼らがどこでつまづいているのかを理解しようとしなかった。
- ・ 『分かるテキスト！』のような参考書を購入してもらい、それに沿って支援したが、無意味。
- ・ なぜわからないのかを深掘っていく作業を教室全体でしなかった。

失敗談 その②



- ・ 小集団指導も展開していましたが、玩具の書庫はかぎが開いたまま。
- ・ メイン講師（＝リード）のマンパワーで、注意を引き付けるも、その内容についていけないお子様が癇癪を起こして、メイン講師から「叱る」行為をした。
- ・ 気持ちの受け止めをすることが後手後手に回り、事業所への行き渋りにつながった。

失敗談その③



- ・ 保護者さまがモニターで教室やこどもの様子を見ていることを優先し、玩具の片づけをそのこどもの気持ちや意見を確かめることなく、レゴブロックを片付けた。
- ・ もちろん、気持ちの切り替えが難しく、問題行動として露呈させ、保護者様にとってつけた理由や説明をして、帰宅してもらった。

失敗談その④



- ・ プログラムを企画したエネルギーをそのままこどもに押し付けた。
 - ・ こどもは楽しくないと言っているが、それが『許せなく感じた』
- 先生が、無理矢理にやらせようとして、激昂した。
- ・ 「なんでやってくれないの」という大人の価値観を問い直すことができなかった。

これらの失敗から学んだこと

- ① **こどもの意思を無視したイレギュラーな環境配置**
- ・ こどものことばを確認せず、片付ける
 - ・ こどものわからないを確認せず、参考書を提示する等

- ② **おとなの都合で動いた指示・支援（？）**
- ・ 一生懸命準備したのに…という支援者の思いの吐露
 - ・ はたして、「こどもまんなか」だったか？



まずは、こどもまんなか！

1

お子様を通所させている保護者さまのニーズも大切です。

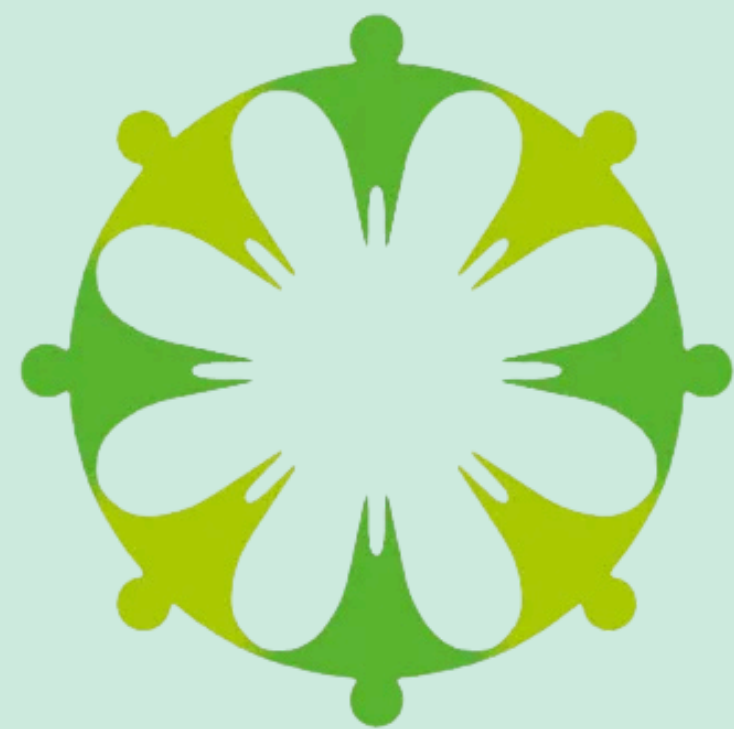
2

しかし、プログラムを受けて参加するのは『お子様』

3

児童指導員の皆様は、まず、目の前のお子様に対して支援することをお忘れないようにしましょう♪





ヒトツナのプログラム

ヒトツナのプログラム①

おこさまひとりひとりが
楽しめる



おこさまが【初めて】を
肯定的に経験できる



指導員と一緒に挑戦できる



まいにちが修学旅行！



ヒトツナのプログラム②

リード LEAD	現場においてチームを包括する役割
プロンプター PROMPTER	お子様にあった参加しやすい促しを行う役割

**どちらが欠けても成立しない
どちらも同じだけ重要な役割**

本研修の目的

- 物的環境と人的環境について知る
- リードおよびプロンプターの役割を理解する
- お子様に対するまなざしを
ちよつと変えてみる
- 教室内の『環境』を捉え直してみる

物的環境と人的環境

●令和6年7月「放課後等デイサービスガイドライン」より抜粋

- ・放課後等デイサービスを提供する上では、**支援に携わる職員や子ども等の人的環境、施設や遊具等の物的環境**、さらには自然や社会の事象等の環境を考慮し、支援に当たる必要がある。放課後等デイサービス事業所は、**こうした人、物、場等の環境が相互に関連しあい**、こどもの生活が豊かなものとなるよう、次の事項に留意しつつ、計画的に環境を整え、工夫して、子どもに対し支援を行わなければならない。

物的環境と人的環境

●令和6年7月「放課後等デイサービスガイドライン」より抜粋

- ① こども自らが環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいくことにより、興味関心を広げ、こどもによる選択ができるよう配慮すること。
- ② こどもの活動が豊かに安全・安心に展開されるよう、事業所等の設備や環境を整えるとともに、事業所等の衛生管理や安全の確保等に努めること。
- ③ こどもが生活する空間は、温かで、親しみやすく、くつろげる場となるようにするとともに、障害の特性を踏まえ、時間や空間を本人にわかりやすく構造化することや、不安な気持ちを落ち着かせる環境を整えるなど、個々のニーズに配慮した環境の中で、生き生きと活動できる場となるように配慮すること。
- ④ こどもが人と関わる力を育てていくため、こども自らが周囲のこどもや大人と関わっていくことができる環境を整えること。

物的環境とは？

●物的環境

- ・ **遊具・設備（玄関／水回り／ロッカー）・玩具・絵本・紙芝居等の物理的・文化的な「物」を指します。**
- ・ **コーナガードをつけておく、コンセントの口にフタを取り付けておく、ドアの開閉の際に手を挟まないこと等未然に大きな事故を防ぐことも物的環境と言えます。**

構造化とは？

●構造化

・「なんとなく、汚しちゃってもいいかなあ」と思える部屋はどちらですか？



構造化とは？

●構造化

- ・ 構造化は、主に自閉スペクトラム症（ASD）の子どもやその家族の支援を目的として開発され、広く世界中で実践されている生活全般における総合的・包括的なプログラムであるTEACCH（TREATMENT AND EDUCATION OF AUTISTIC AND RELATED COMMUNICATION-HANDICAPPED CHILDREN）で用いられる、手続きのこと。

構造化の3要素

- ①時間の構造化 ②空間の構造化 ③手続きの構造化

構造化とは？

①時間の構造化

- ・ いつ、何をするかについて、その日の活動をわかりやすく書き言葉やイラスト、写真で提示し、見通しを立てやすくしたり、何度も確認ができることから安心感をもたらしたりする仕組みのことです。(言った・言わないを極力減らす支援)

【例】

- ・ ホワイトボードに1日の流れを書く・写真で示す
- ・ ①、②と通し番号を書いて手順を示す
- ・ 矢印の方向を書いて手順を示す



構造化とは？

②空間の構造化

- ・ どこで、何ができるかを決めておくことで、決められた場所で安心して過ごすことができるように支援する仕組みのことです。

【例】

- ・ 部屋ごとに「活動部屋」「クールダウン部屋」と設定する
- ・ カーペットの色でできることを分ける
- ・ 机と椅子を事前に設置し、「粘土ゾーン」「塗り絵ゾーン」などを見える化する

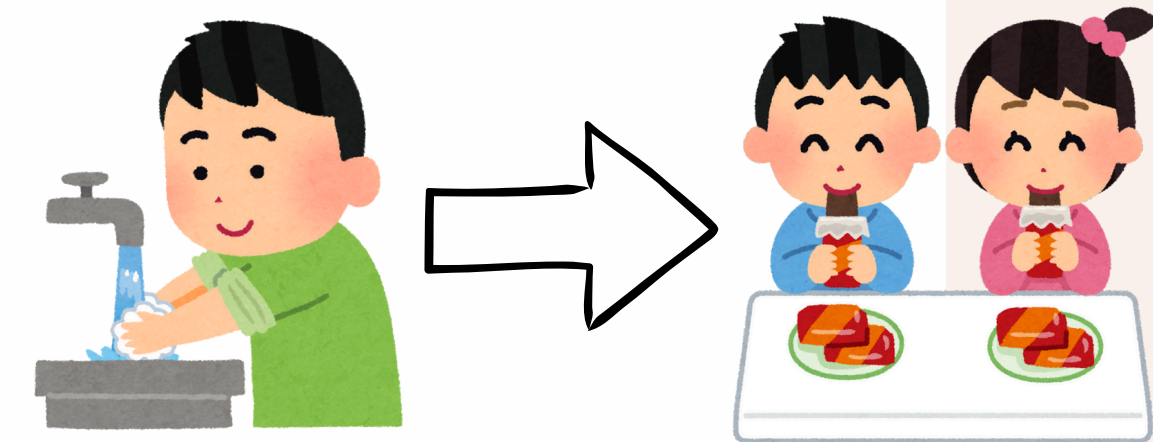


構造化とは？

③手続きの構造化

・どこで、個々の手続きを細かく区切り、何をするのかを明確にすることを目的としています。時間の構造化は長い時間での見通しであるのに対して、手続きの構造化は、**比較的短いスパンでの構造化**をねらいとしています。

例：折り紙の手順を1つ1つ写真で提示する
手を洗ったらおやつが食べられるよと伝える
または、イラストで見せる



人的環境とは？

●人的環境

- ・ 人的環境とは、後述する「リード」や「プロンプター」、その他、一指導員そのもの。
 - ・ また、指導員からでてくる「人柄」「語彙」「声色」「抑揚」「表情」「雰囲気」すべてが人的環境と言えます。
- 支援員の何気ない一言や表情が、目の前のお子様にとっての環境です
- ・ 物的環境と、職場内での「人」が教室内全体の雰囲気を左右します。

人的環境とは？

●仮に、「眉間にシワを寄せて、貧乏ゆすりをして、ずっと低音で小さい声で怒っていそうな先生」が、教室内にいた場合…

- ・ その先生を避けて遊ぼうとする行動をとる
- ・ 走る、ジャンプするなどの行動を避ける
(思い切って遊びこめない可能性がある)
- ・ 怒られないように、小さい声で話す
- ・ ヘルプ要求を気軽に出すことが難しい…など

人的環境とは？

●支援者としての「援助」の種類

①主導（指示をする、説明をする、方向づけをする）

「今日は～～します。」「△△してはいけません。」など断定表現が多い

②誘導（提案する、促す、誘ってみる）

「～してみる？」「○○一緒にやろうよ。」など①より柔和な表現

③示唆（見本を見せる、きっかけを作る、助言を伝える）

「～～すると良いよ。」「これ見たら分かるかも！」

→支援員の意図を少なからず含んでいる。

人的環境とは？

●支援者としての「援助」の種類

④協同（協力する、共同する、同等の関係を持つ）

こどもと大人が対等になって関わる。支援者とこどもの意志を互いに表現する

⑤受容（受け止める、認める、励ます）

こどもの気持ちを理解し、こどもの意志を尊重する。「そっか、～～したかったんだね。」「うんうん、それでいいんじゃない！／いいと思うよ^^」

⑥見守る（状況を把握する、まなざしで支える、必要な手助けをする）

必要に応じて関わる。こどもが主体的に行動・表現することを見て支援する

⑦関与なし（存在のみ把握する、任せる）

こどもとは関わらない。

環境としての支援者

●本日のワークを通して…

- ・ 支援者がお子様をどうまなざし、支援をしているか
 - ・ どんな表情でお子様と向き合って過ごしているか
 - ・ 活動の目標設定はいかほどか（その子のゴールはどこにあるのか）
- などを、一度見つめ直してみましょう！

構造化しながら集団療育するために

リード LEAD	現場においてチームを包括する役割
プロンプター PROMPTER	お子様にあった参加しやすい促しを行う役割

**どちらが欠けても成立しない
どちらも同じだけ重要な役割**

リードの役割

手だての考案

- ・ 集団のお子様のレベルや特性に合わせ、可能な限り多くのお子様を取り組める＆参加できるプログラムを設定する。
- ・ 集団から外れることが想定されるお子様に対して、提供できる環境等工夫を事前に考える。
- ・ お子様の心に火をつける工夫をする。
- ・ 支援計画（5領域）の目標と活動内容を連動させるべく、支援計画の把握に努める。

環境設定

- ・ 安全の管理（※）をし、こどもの動線上に危険なもの・刺激になるものがあつた場合は、排除するようにプロンプターに働きかける。
 - ・ 言葉でのルール提示だけではなく、視覚からもルール提示を行い、把握・理解をしやすいように構造化する。
- ※安全管理・リスク管理はリードのみ考える事項ではなく、管理者／児発管を筆頭に話し合う必要があります！（朝礼等を活用すること）

リードの役割

指示や強化の提示

- ・ お子様に伝わりやすい声のトーン・テンポ・大きさと表情で簡潔明確な指示をする。（永遠に必要です）
- ・ お子様を注目させるための手立てを支援の中で出す。
- ・ お子様が望ましい行動・言語表現をした際には、すかさず評価し、全体を通して、ポジティブな声掛けを用いて支援を展開する。
- ・ 「できそう・わかりそう」な指示を意識して表出する。

チーム包括

- ・ 現場においてチームを包括する立場（※）としてプロンプターに指示を出す。
- ※リードを展開するのは大きな負担になりうる職員もいます。そのため、チーム包括という視点では、後述するプロンプターの役割に変換しても大いに結構です！
- ※まずは、その日の活動を安全に進行しただけでも◎

リードとしてのマインド

- ① 『ひとりでやらない』
- ② 失敗ではなく、アセスメント
であると切り替える



プロンプターの役割

環境設定

- ・ 活動の参加が難しいお子様に対して、それぞれのお子様にあった参加しやすい促しを行う。
- ・ お子様の刺激になるような物などを排除したり、危険を予測してお子様の安全確保を行ったりする。
- ・ リードの指示に対して全体を盛り上げたり、模倣対象となることで雰囲気づくりを行う。

補足的強化

- ・ リードが見逃したお子様の望ましい／良い行動に対して個別に強化の声掛けを行う。
- ➡ 『個別の強化の声掛け』とは？
- ・ 褒める（結果を評価する）・認める（過程を評価する）等
- ※支援者ひとりひとりが、どんな言葉でお子様に『声掛け』をしているか確認してみましょう！
- （アイメッセージの必要性）

プロンプターの役割

チーム連携

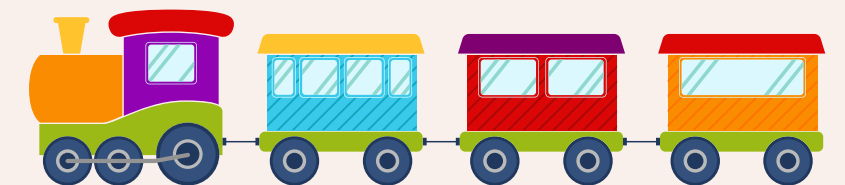
- ・リードや他のプロンプターと連携しスムーズなプログラム進行（次ページで詳しく説明します。）を行うために教材準備等、率先して動く。
 - ・現場における優先順位として、
①危険回避（※）／②子どもへの療育的関わりの提供／
③写真やHUGの操作という意識を持ちながら、お互いに声を掛け合うことで漏れのないように動く。
- ※安全管理・リスク管理はリードのみ考える事項ではなく、管理者／
児発管を筆頭に話し合う必要があります！（朝礼等を活用すること）

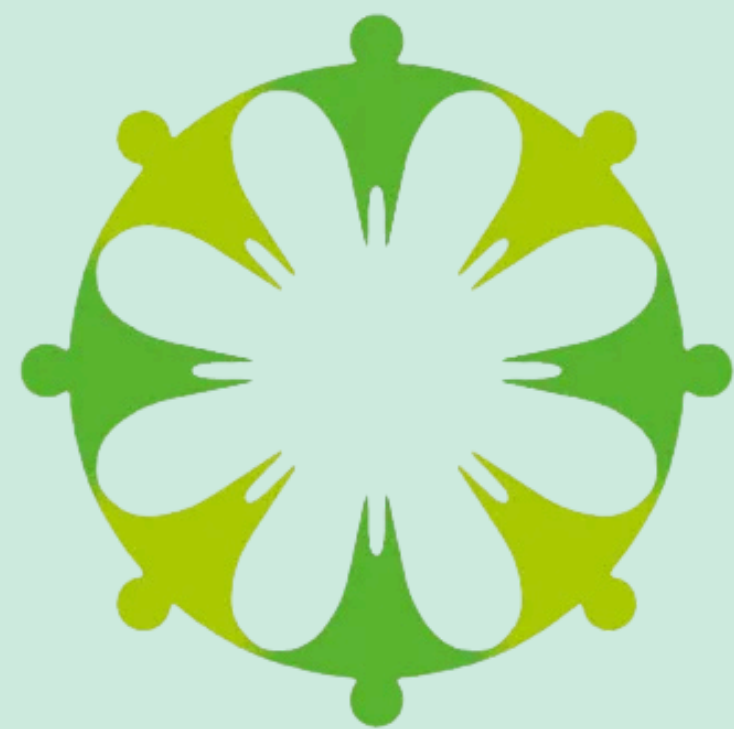
スムーズなプログラム進行のために

まず、第一に、プログラムを受ける・取り組むのは、【**お子様**】です。

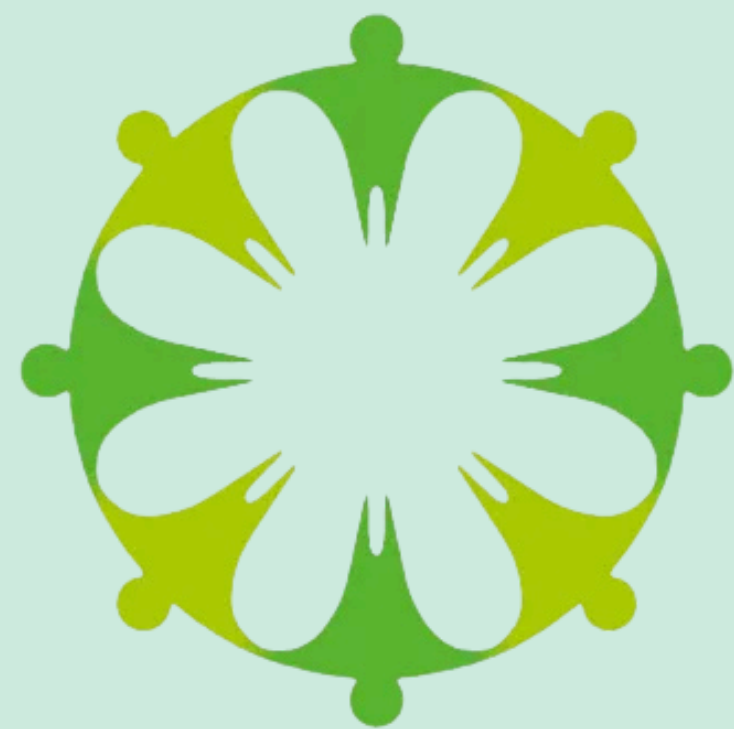
どんなに完璧に、念入りに準備をしていたとしても、実施に消極的な態度や、遊びからの切り替えが難しく痙攣行動に走るお子様など、当日にうまくいかないこともあると思います。（日常茶飯事ですよね汗）

ここで重要なのは、『**リードとしてのマインド**』を持ち合わせつつ、リードからプロンプターに対して、進行するうえでやってほしいこと等を、サービス提供時間前に共有しておくことが肝要です！





**現場視点で【環境】を
捉え直してみよう**



ワーク①

いろいろな視点で
環境設定をしてみよう

話し合いのグラウンドルール

- ・ **受容する**

= 即時否定しない

→ 虐待・身体拘束につながる
こと以外は認めていく

- ・ **端的に説明する**

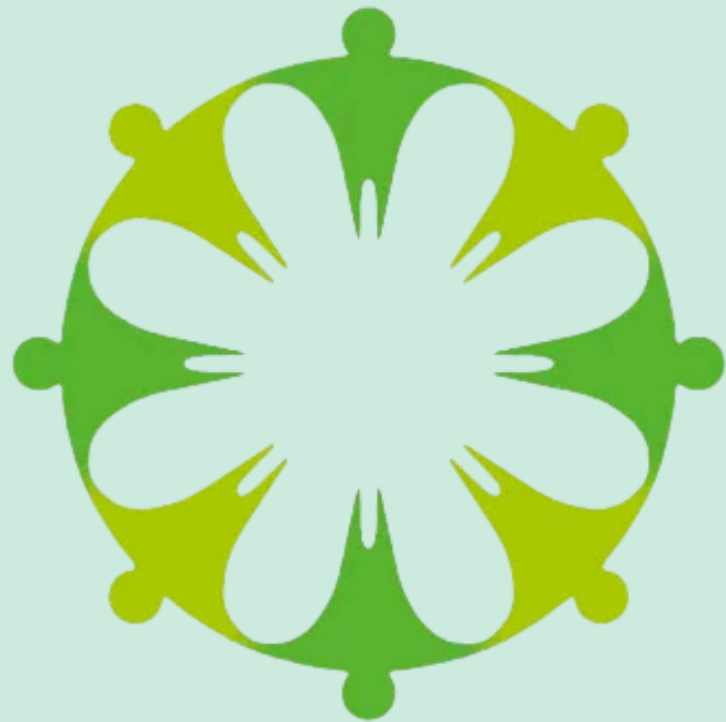
= 時間を独占しない

→ 全員が「話す」「聞く」
を役割交代する

- ・ **子どもをまんやかに**

= 最善の利益を保障する

→ 常に子どもが楽しい・やって
みたい！と思える議論を



次の事柄は、教室内によくいるお子様の状況を説明しています。今回は皆様がプロンプターとして、環境設定する役割です。

その日は、運動・感覚領域で、『**ボウリング**』を実施する予定です。出席人数はAさん含めて児発4名です。

児童発達支援の A さん（年少・男児）

ASDの特性があり、人に興味がありません。

感覚探究もあり、走り回ります。言葉の表出もほぼありません。

① 「ボウリングをやってみよう！」と思える環境設定（ルールも含む）を考えてみましょう。（リードの役割として）

② そのお子様が参加できるようにするために、プロンプターはどんなことができますか？



次の事柄は、教室内によくいるお子様の状況を説明しています。今回は皆様がプロンプターとして、環境設定する役割です。

その日は、運動・感覚領域で、『**ボウリング**』を実施する予定です。出席人数はBさん含めて放デイ6名です。

放課後等デイサービスのBさん（小2・男児・暗算好き）

グレーゾーンのお子様で、若干衝動性が強いです。ボウリングをすることを伝えたと、「つまんねえ！」と言って、活動を拒否しました。

- ① 「ボウリングをやってみよう！」と思える環境設定（ルールも含む）を考えてみましょう。（リードの役割として）
- ② そのお子様が参加できるようにするために、プロンプターはどんなことができますか？



たとえば…

児童発達支援のAさん

① 「ボウリングをやってみよう！」 と思える環境設定（ルールも含む）を考えてみましょう。（リードの役割として）

- ・ ボウリングを始める線をガムテープで示す
- ・ ボウリングのピンにその子の好きなイラストを貼る
- ・ ボールなどの実物を見せる説明をする
- ・ 本人が好きな音楽を流す
- ・ 集団が難しそうなら、最初はプロンプターと少ないピンでやってみる
- ・ 活動前の自由時間で少ないピンの数で遊んでみる→見通しを立てる
- ・ ピンを立てるお手伝いをしてもらう
- ・ サーキット形式にして、走ってからボウリングなどのコースに設定する



たとえば…

児童発達支援のAさん

②

**そのお子様が参加できるようにするために、
プロンプターはどんなことができますか？**

- ・ 活動中は、写真などを見せてどんなことをするのかを視覚提示する
- ・ 本人の参加する、しないにかかわらず、隣で様子を見守る（見学していたら、それで花丸！と認める）
- ・ 手を繋いで、安心や安全を担保したうえで、参加を促してみる。
- ・ リードの先生に確認したうえで、まずは個別にボウリングを楽しむ時間を設定する
- ・ ボウリングに参加すると良いことがあることを視覚的に提示する



たとえば…

放課後等デイサービスのBさん

① 「ボウリングをやってみよう！」 と思える環境設定（ルールも含む）を考えてみましょう。（リードの役割として）

- ・ ボウリングを始める線をガムテープで示す
- ・ ボウリングのピンにその子の好きなイラストを貼る
- ・ ボールなどの実物を見せる説明をする
- ・ 本人が好きな音楽を流す
- ・ ピンを立てるお手伝いをしてもらう
- ・ 得点係を暗算でしてもらう
- ・ トークンを用いる（参加したらシールがもらえる！）
- ・ ボウリングのルールを変更する（1ピン倒すと5万点！）
- ・ 本人がはまりそうなルールを採用してみる（事前に聞いてみる）



たとえば…

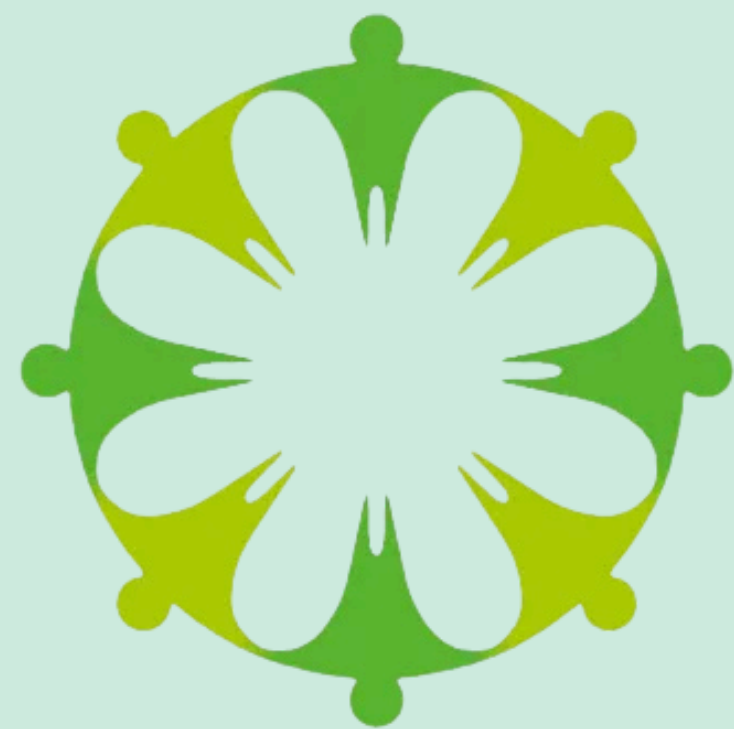
放課後等デイサービスのBさん

②

**そのお子様が参加できるようにするために、
プロンプターはどんなことができますか？**

- ・ 支援員から勝負を提案する（協同の視点）
（大人が本気で悔しがる姿はお子様は好きだったりする）
- ・ 本人の参加する、しないにかかわらず、隣で話すことから始める（気持ちを徐々に上げていく）
- ・ どんなボウリングだったら楽しめそうかを聞いてみる
（集団のため、「できること」「できないこと」を確認する）
- ・ ピンの数を増やす
- ・ ボウリングに参加した後のメリットを提示する
（粘土をする時間が増える・自由遊びの時間が増える等）





ワーク②

ほめ言葉を伝え合おう

1

ふだん、お子様と接している際に、伝えているほめ言葉（受容の言葉もOK）を3分間で考える。

2

ふだん使っているほめ言葉だけではなく、皆様のご友人や同僚に対しても伝えている言葉でももちろんOK◎

3

単語（やったね！）やフレーズ（とっても優しいね、〇〇さん）もOK！

4

教室内で共有しましょう♪



モチベーションが上がる3つの承認と伝え方

ほめる、と一概に言っても、タイプが3つに分かれていると言われています。

①**結果承認**：過去に行ったことに対して、その価値を認めること。

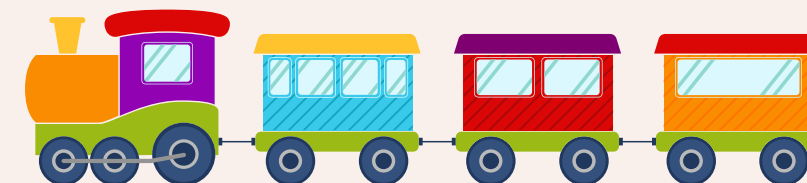
例：課題や活動に対して、（少しでも）できたことを伝える。

②**行動承認**：現在進行形で行っていることに対して、価値を認めること

例：結果は思うようにはいかなかったが、取り組んだ**過程**を評価する。

③**存在承認**：存在そのものを認めること

例：相手の名前を呼ぶ・挨拶する・「いつも〇〇だね、△さん。素敵だね。」



モチベーションが上がる3つの承認と伝え方

現場において、必要な承認は、②・③を意識していく。

- ・見える評価は、学校の先生や幼稚園・保育園でたくさん言われている

担任がひとりで全員の行動承認や存在承認を個別に伝えることは困難。

→児童発達支援・放課後等デイサービスに来るお子様は、後ろ向きな評価を多くもらっていることは事実。

だからこそ、さまざまな活動をとおして、行動そのものや存在そのものを伝えていくことが求められる。



お子様を「ほめる」こと以外にも…

・ほめること自体は良いと分かっているけど、良いところを見つけるのが難しい場合があります。無理にほめる、ことを伝えてもわざとらしくなってしまうって伝えることに気が引けることもあります…

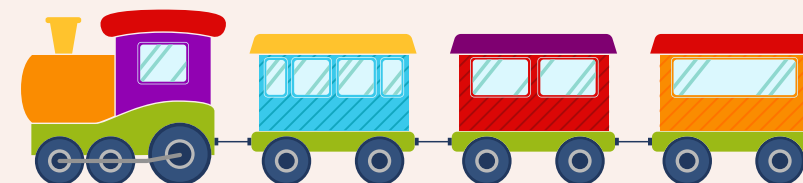
お子様の「行動を実況中継」する！

→ほめる、ではなく、「認める」を意識してみる。

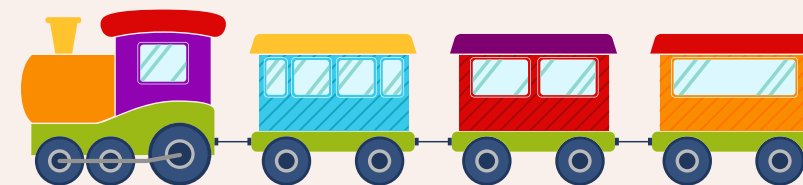
- ・ほめる＝できる・できたことを評価することが多くなります。→評価基準が上がる
- ・認める＝現在進行形で好ましい行動を「～しているね」と実況中継し、「あなたを見ているよ」ということを伝えます。お子様からすると、「見てもらえた」「気にかけてもらえている」と思えます。

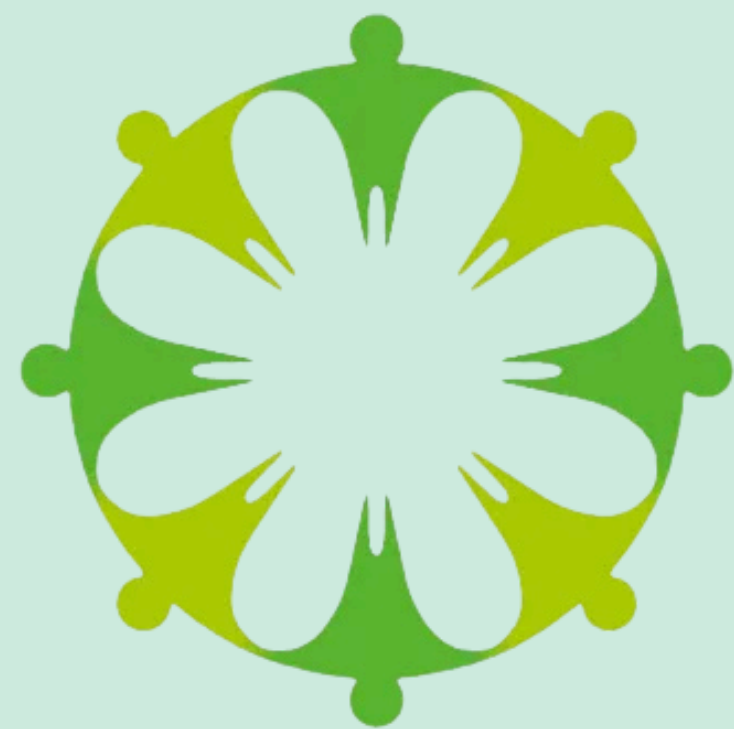
例：「靴を自分ではいているね」「お片付けを始めたんだね」

「シートベルト自分でつけたね」「先生と一緒に歩いているね」



**現場にいる指導員も
【環境】である！**





名前ってどうして大切？

名前ってどうして大切？



何気なく、お子様に対して「～ちゃん」「～くん」「・・・さん」と支援中はお声掛けされていると思います。

そして、入社するとまずは、「こどもの名前を憶えてください」と、研修中に言われることが多かったかと思いますが、研修担当の先生も名前と顔の一致をまずは最優先にされているのではないかと思います。

さて、**どうして名前（と顔）を覚えることが大切**なのでしょうか。
いろいろな答えがあるかと思いますが、まずは教室内で話し合ってみましょう。

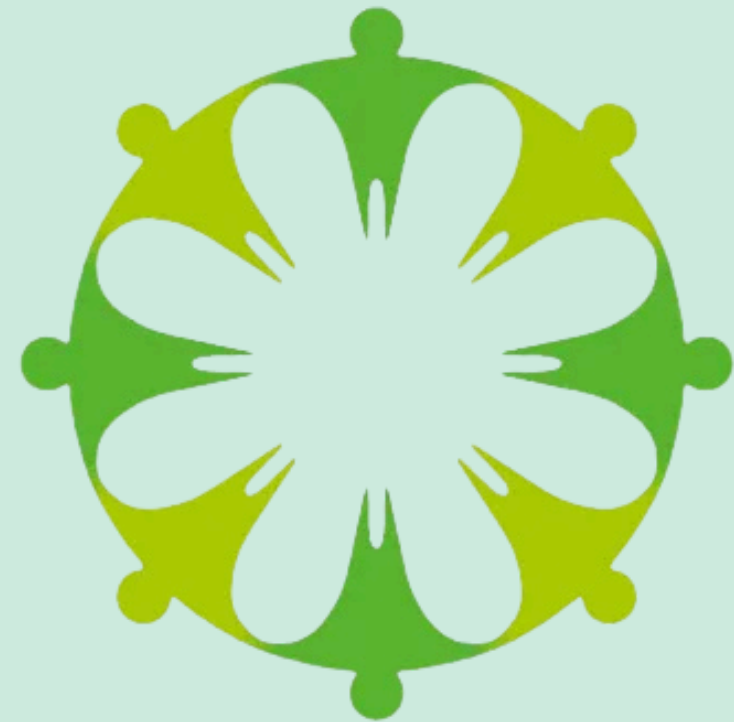
名前を覚え合うことは

★支援者・こどもがそれぞれの世界に影響しうるからに他ならない。何をするにも選択肢になる。
→先生の名前を覚えてもらうことは、ヘルプ要請にも影響する。



おわりに…

**・ 支援者自身が支援を
楽しみましょう！**



**大人がルールや秩序のある中で楽しんでいる
のを見てこどもも楽しみます。どんな活動で
も「楽しく魅せる」ことは児童指導員の専門
性の1つだと考えられます。**

ご清聴ありがとうございました。

ヒトツナ大袋教室 橘 健太